

令和4年度第1回石狩市総合戦略推進懇話会 議事録

【日 時】 令和4年8月2日（火）14：00～15：45

【場 所】 花川北コミュニティセンター 2階会議室A・B・C

【出席者】 13名（16名中）

役職	氏名	出欠	役職	氏名	出欠	役職	氏名	出欠
会長	角川 幸治	○	委員	小山 玲子	○	委員	新居 久美子	○
副会長	竹口 尊	○	委員	後藤 芳子	○	委員	野村 彩夏	○
委員	秋田谷 順子	○	委員	獅子内 彰	×	委員	林 俊樹	○
委員	神林 周二	○	委員	白井 かの子	×	委員	林 美香子	×
委員	河野 明美	○	委員	鈴木 圭一	○			
委員	小島 義昭	○	委員	高宮 則夫	○			

※正副会長を除き、あいうえお順

【オブザーバー】 北海道石狩振興局地域創生部長 阿部 真理、地域振興係長 片倉 あすか

【事務局】 企画経済部長 小鷹 雅晴、企画課長 宇野 博徳、企画課主任 本庄 あゆみ

【傍聴者】 0名

【事務局（宇野課長）】

皆様、どうもお疲れ様でございます。本日は時節柄大変お忙しいところご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。定刻を少し過ぎてしまいましたが、ただいまから「第1回石狩市総合戦略推進懇話会」を開催させていただきます。

私は、事務局の企画課長 宇野と申します。どうぞよろしく願いいたします。会長・副会長が決まるまでの間、私のほうで進行をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

本会議は傍聴可能な公開形式となっております。会議の記録のため、今後、写真を撮影する場合もあるかと思いますがご了承をお願いいたします。

本日の会議ですが、お手元にお配りいたしました「次第」に沿って進めさせていただきますが、直近のコロナ感染拡大の状況の中で、できるだけ迅速に、おおむね3時半から4時を目途に終了したいと考えておりますので、ご協力のほどをお願い申し上げます。

なお、委嘱状の交付につきましては、時間の関係もございまして、大変恐縮でございますが、あらかじめ皆様のお座席に配布させていただきまして、これをもって交付とさせていただきますのでよろしくお願いいたします。委嘱期間は、令和6年3月30日までの2年間でございます。

それでは、議事に入る前に石狩市企画経済部長の小鷹より皆様へ一言ご挨拶申し上げます。

【事務局（小鷹部長）】

皆様こんにちは。本日はお忙しい中、このようにお集まりいただきまして感謝申し上げます。また、日頃より市政運営に関しまして多大なるご理解をいただいておりますこと、また、お力添えをいただいておりますこと、この場をお借りいたしましてあらためて感謝申し上げます。

今回、皆様にご評価いただきますのは令和元年度に作成しました総合戦略でございまして、こちらは令和2年度から令和6年度までの計画となっております。昨年は皆様に評価いただいた中で、事業を実施するにあたり職員同士の引継ぎが悪いというような事業に対してのお叱りを受けたということもござい

して、そのようなことも含めて皆様にこの事業をしっかりと評価していただきたいと考えてございます。

また、コロナが世界も日本も、この石狩も続いている状況でございまして、その中で本市の事業も規模を縮小したり、あるいは止めたりという事業もたくさん出てきています。今後においても、感染予防対策と社会経済活動の両立を図りつつ、地方創生の推進に取り組んでまいりたいと考えてございます。

最後に、これらの市の戦略的な事業の紹介は事務局のほうからさせていただきますと同時に、皆様から様々な観点から闊達なご議論、ご評価をいただきたいと考えてございます。

簡単ではございますが、私からの挨拶とさせていただきます。本日はよろしく願いいたします。

【事務局（宇野課長）】

続きまして、委員の皆様をご紹介させていただきます。石狩市総合戦略推進懇話会設置要綱 第3条の委員区分毎にお名前をご紹介させていただきます。

学識経験者として、北海学園大学工学部 非常勤講師 高宮 則夫 様です。

産業界、金融機関、労働団体及びメディアの関係者として、石狩商工会議所 常議員 角川 幸治 様です。石狩商工会議所 女性会 副会長 後藤 芳子 様です。一般社団法人 石狩観光協会 主任 野村 彩夏 様です。石狩市農業協同組合 女性部部长 新居 久美子 様です。株式会社イシカン 代表取締役 鈴木 圭一 様です。北海道信用金庫 石狩支店 支店長 林 俊樹 様です。北海道銀行 花川支店 支店長 神林 周二 様です。北洋銀行 花川北支店 支店長 小島 義昭 様です。株式会社キューブコーポレーション 代表取締役 河野 明美 様です。

住民組織の関係者として、わかば地区地域会議 会長 竹口 尊 様です。厚田区地域協議会 委員 小山 玲子 様です。

公募委員として、秋田谷 順子 様です。

なお、北海道大学大学院農学研究院 客員教授 林 美香子 委員、浜益自治婦人会連絡協議会 白井かの子 委員、連合北海道石狩地区連合 副事務局長 獅子内 彰 委員におかれましては、本日都合により欠席となっております。

それでは、オブザーバーのご紹介をさせていただきます。本日、オブザーバーとしてご出席をいただいております、石狩振興局地域創生部長 阿部 真理 様でございます。

【オブザーバー（阿部部長）】

石狩振興局の阿部と申します。どうぞよろしく願いいたします。オブザーバーという形での参加ですが、少しでも皆様にお力添えできればと思っておりますのでどうぞよろしく願いいたします。

【事務局（宇野課長）】

同じく、石狩振興局地域創生部地域振興課係長 片倉 あすか 様です。

【オブザーバー（片倉係長）】

片倉と申します。どうぞよろしく願いいたします。

【事務局（宇野課長）】

つづいて、事務局の職員を紹介したいと存じます。企画課の本庄です。なお、担当主査 幸田でございますが、皆様にいろいろと連絡させていただいておりました。本日は急遽欠席ということで申し訳ございません。紹介のみとさせていただきます。

それでは続きまして、会長・副会長の選出についてでございます。石狩市総合戦略推進懇話会設置要綱

の第4条におきまして、「懇話会に会長及び副会長を各1人置き、委員の互選により定める。」となっておりますが、こういった形で選出すればよいかご意見があればお願いいたします。

【野村委員】

事務局案があれば、ご提示いただければと思います。

【事務局（宇野課長）】

ただいま、野村委員のほうから事務局提案とのご意見がございましたが、他にご意見がなければ事務局から提案させていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

<「異議なし」の声>

【事務局（宇野課長）】

事務局案といたしましては、前期から引き続き委員をお引き受けいただいておりますお二方。会長には産業界からご参加いただいております、石狩商工会議所の角川委員に。副会長には住民組織分野からご参加いただいております、わかば地区地域会議の竹口委員にお願いしたいと考えておりますがいかがでしょうか。

<「異議なし」の声>

【事務局（宇野課長）】

ありがとうございます。それでは、会長には「角川委員」を、副会長には「竹口委員」にお願いしたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

これ以降の進行につきましては、角川会長にお任せしたいと存じますのでよろしく願いいたします。

【角川会長】

皆様、あらためましてこんにちは。今回ですね、引き続きということになるんですけど、石狩市総合戦略推進懇話会の会長ということで務めさせていただくこととなります。北創という建設会社の代表取締役を務めております角川と申します。どうぞよろしく願いします。

私もこの懇話会の会長ということで、何期目でしょうかね。4、5と務めさせていただいてるんですけども、この間に私たちを取り巻く環境というのは本当に大きく変わりました。なんと言っても、近年のこのコロナ禍ですよね。経済も皆さんの生活も大きく変わり、まちの機能も変わってしまう部分もあるということで、これがまだ第7波が続いている状況なんですけど、その中でも懇話会としてはまずできることをやっていくということ。そして、少しずつワクチンの供給なんかもありますから、状況が変わってきているということで一歩でも前に進めていければなど。

やはり市政のお手伝いというか、ご意見番というか意見を出し合っただけでもいいまちづくりに貢献できればなどということで、皆さんにはこのお忙しい中お集まりいただいていると、本当に感謝を申し上げたいなと思っております。

この懇話会自体も、先ほど竹口副会長とお話ししていたんですけど、だいたい1年ぶりくらいということですが、ここ2～3年は本当に回数も非常に少なく。例えば、フィールドワークもよくやっていたんですけど、現地に行って生のいろんな活躍されている方の仕事ぶりなり、仕組みなりを見ていくということも昔やってたんですけど、最近そういうこともできなかった。今後もコロナの状況を見ながらということになるとは思うんですけど、そんなことをまた考えながら進めてまいりたいなと思ってます。

事務局の皆さんとももちろん連携を取りながら、宇野課長はですね、前にお世話になった行政改革懇話会でやっていたんですけども、そちらのほうは私はもう卒業しまして、こちらの懇話会に集中できます。

ぜひ、いろんなご意見をお寄せいただきたいなと思います。時間のほうもこういう状況ですので、なるべくスピーディーに進めていきたいと思っています。いつも私がやっているのは、一人必ず一言ずつはご意見を、感想でもなんでもいいのでいただきたいなと思っています。また2年間という任期になりますけれども、竹口副会長ともども、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、そのまま進めさせていただきます。

次第に基づきまして「次第2：総合戦略推進懇話会について」ということで、事務局から説明をお願いします。

【事務局（宇野課長）】

お手持ちの資料をご確認願います。すでに郵送で送らせていただいておりますが、

- ・ 次第
- ・ 資料1 総合戦略推進懇話会（令和4年度）
- ・ 資料2 総合戦略推進懇話会委員名簿
- ・ 資料3 第2期総合戦略 令和3年度 実績概要
- ・ 資料4 第2期総合戦略 令和3年度 実施事業一覧
- ・ 冊子の「第2期石狩市まち・ひと・しごと創生総合戦略」

以上が本日の資料となっております。お持ちでない場合はお知らせください。よろしいでしょうか。

それでは、資料にそって説明を申し上げます。まず、資料1をご覧ください。

本懇話会は、広く関係者の意見を反映し、総合戦略の効率的・効果的な推進を図ることを目的とし、市の設置する「総合戦略推進本部会議」から総合戦略の進行状況等の報告を受け、必要な助言や提案を行うこと等が役割となっております。

懇話会委員の任期は2年間となっております。皆様には令和4年度から令和5年度の委員としてご就任いただくこととなっております。現行の第2期総合戦略の計画期間は令和2年度から令和6年度までの5年間となっております。本日の懇話会では、昨年度、令和3年度に実施した事業について検証・評価を行っていただきたいと存じます。

次にスケジュールについてですが、懇話会のスケジュールといたしましては、本日1回目の懇話会を開催し、2回目は10月頃と考えておりますが、先ほど角川会長からのご挨拶の中でありましたように、フィールドワークという形の中で市内の施設見学会などを予定してございます。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の状況によっては、昨年同様また開催を見送る場合がございますのであらかじめご了承お願いいたします。開催するといった場合には、あらためてご連絡を申し上げたいと存じます。

懇話会と連動し、以下、「総合戦略推進本部会議」、「市の各所管」については、懇話会からの意見を踏まえまして、事業の評価、必要な見直しを行い、次の事業計画、実施へと繋げて参ります。

次に資料2でございしますが、懇話会の名簿となっております。

次第2、懇話会についての説明は以上です。

【角川会長】

ありがとうございます。ただいま、事務局から説明がありました。何かご質問等ございますか。

<なし>

【角川会長】

今年度の懇話会は全2回という認識でよかったですか。

【事務局（宇野課長）】

そうです。

【角川会長】

わかりました。それでは、次に行きたいと思います。次第3「令和3年度実施事業の点検・評価について」事務局から説明をお願いいたします。

【事務局（本庄主任）】

「資料3 令和3年度実績概要」をご覧ください。第2期総合戦略では、第2期総合戦略の最終年度である令和6年度の「数値目標」として、6つの戦略目標ごとに2つの指標を設定しています。それを達成するために、具体的な65項目の施策と「重要業績評価指標（KPI）」を設定しております。

本日の懇話会では、その具体的な65項目の施策の取組状況について評価をしていただきまして、はじめに12の数値目標の現状とKPIについて概要をご説明させていただきます。

まず、「1. 戦略目標別数値目標の進捗状況について」です。

こちらの資料は6つの戦略目標ごとに、計12の数値目標につきまして、令和3年度末までの状況をまとめたものになります。これらの指標のうち、⑤「市内産業売上高」につきましては、経済センサス活動調査の数値を目標としており、直近では令和3年6月に実施されておりますので、結果は本年12月以降に順次公表される予定となっているので、実績の記載はしておりません。

それ以外の11の項目につきましては、令和3年度時点で③「年少人口」、⑨「転入・転出者の均衡」、⑩「年度末の人口」の3指標が達成となっております。それ以外の8指標については、未達成となっております。これらの未達成の指標のうち、人との接触など、3密といった新型コロナウイルス感染症の影響を受けていると考えられるもの、特に①「地域活動に関わりをもつ新現役世代の人数」や、⑦「交流人口数」につきましては、感染症による影響が大きい数値であると考えております。

続きまして、「2. 施策別重要業績評価指標（KPI）の実績について」です。

具体的な取り組みの全65項目のうち、「KPIをすでに達成している」S評価は3項目で全体の5%、「KPIの達成に向け、着実に取り組まれている」A評価のものは39項目で全体の60%、「KPIの達成に向け、事業の改善や見直し等が必要である」B評価のものは23項目で全体の35%という状況となっております。

S又はA評価は全65項目中42項目となり、全体の約65%となっておりますが、B評価のうち感染症による影響を受けたと考えられる16項目を除く49項目におきましては、S又はA評価の割合は全体で約86%となり、コロナの影響を考慮すると、概ね良好な進捗状況と言えるのではないかと考えております。

資料3、実績概要についての説明は以上です。

【角川会長】

ありがとうございます。ただいまご説明のありました「令和3年度 実績概要」について、KPI、目標の達成度というところなんですけど、ご意見お持ちの方いらっしゃいますでしょうか。ご質問があればお願いいたします。コロナもありましたが、概ね数字的には良好かなという感じではありますかね。こちらよろしいですか。

<なし>

【角川会長】

はい、ありがとうございます。それでは、次に移りたいと思います。

それでは、ここからが本日の主な議事となるんですけども、「重要業績評価指標：KPI」65項目について、懇話会としての評価をしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

評価の仕方についてですが、市役所、担当課の評価に対して意見のあった項目については、その都度、懇話会としての評価を決定していきます。また、特にご意見等がなかった項目につきましては、担当課の評価どおりというふうに決定していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは引き続き、事務局のほうから説明をお願いします。

【事務局（本庄主任）】

資料4「第2期総合戦略 令和3年度実施事業一覧」をご覧ください。時間の関係もございますので、主な取り組みや、評価の概要を事務局からご説明させていただきます。

こちらの資料は6つの戦略目標ごとの具体的な施策について設定した重要業績評価指標（KPI）について、令和3年度の実績値及び実績内容、令和4年度の予定、担当課の評価を記載したものになっております。懇話会委員の皆様には、懇話会としての評価が「担当課の評価どおり」でよろしければAを、「見直しが必要」であればBというようにご評価いただきたいと存じます。

戦略目標の1と2、3と4、5と6、のように2つずつ区切って、順に説明をさせていただきます。

それでは、「戦略目標1『新現役世代が活躍する』」について説明いたします。資料は1～2ページ、番号は1～10の10項目になります。戦略目標1全体をとおして、担当課評価はAが5項目、Bが5項目となっております。B評価が5割となっておりますが、これは感染症拡大防止のために各種講座やふれあいサロン、屋内のスポーツ大会は延期または中止等の対応をしていることが影響しております。

しかしながら、コロナ禍におきましても、認知症カフェは一カ所の新規開設を支援したり、屋外で距離が十分に確保できるウォーキングイベントは昨年に引き続き開催しております。令和4年度におきましても、人が多く集まる行事については感染症の影響は避けられませんが、その中でも感染防止対策を講じたうえで開催を検討することで考えております。

続いて、「戦略目標2『子育て力』をさらに発揮する」についてです。資料は3ページ、番号は11～18の8項目になります。戦略目標2全体を通して、担当課評価はSが1項目、Aが3項目、Bが4項目となっております。感染症の拡大防止のために、婚活事業、図書館まつり、また北海道のコロナ対策等によりまして学校への出入りが制限された期間がありましたので、寺子屋教室は小学校で行われる事業なのですが、こちらは中止という対応となっております。

一方で、市民図書館で実施している「科学の祭典」という事業は、子どもたちや市民に科学を楽しんでもらうイベントとして毎年実施しておりますが、令和2年度からはwebで開催しており、科学に関する動画配信をするなどコロナ禍に対応した形で実施しております。

12～14番は、事務局をしております企画課で実施している「結婚新生活支援事業」に関わるものとなっております。若者の結婚の希望を叶え、少子化対策や市内への移住を促進するため、新婚世帯の住居費、引越費用等の一部を補助するものです。令和3年度は、補助対象の年齢をこれまでの34歳以下から39歳以下に、所得要件は340万円未満であったところ400万円未満に緩和し、さらに助成額を25万円から最大60万円へ拡充して実施し、全体で23件の新婚世帯を支援しております。KPIにつきましても、補助金の支給件数につきましては概ね順調であると評価しております。

17番の「待機児童数通年0人」ですが、令和3年度実績は0人となっております。こちらは、令和4年1月1日現在の人数を計上しており、令和3年度は1年を通して0人でしたので、単年度で考えると目標達成：S評価としております。単年度はS評価となっておりますが、目標は引き続き通年0人を継続し、これからも取組を続けて参りたいと考えております。

また、令和2年度に新設した「保育士等就職奨励金」がございまして、市内の認定子ども園など新たに保育士として勤務する方や、その後一定期間継続勤務した方を対象に奨励金を交付するものです。実績については、令和2年度は7人、令和3年度は16人に交付し、保育士の人材確保を支援しているところであります。また、私立認定こども園12園に対し、保育に係る周辺業務を行う保育支援者を配置するための一部補助を行い、保育士の業務負担の軽減を実施しております。

戦略目標1・2につきましては、以上です。

【角川会長】

ありがとうございます。それでは「戦略目標1『新現役世代が活躍する』」、「戦略目標2『子育て力』をさらに発揮する」について皆様方のご意見、ご感想がございましたらお願いいたします。

こちら全文筆記でしたか、要約でしたか。

【事務局（小鷹部長）】

全文筆記です。

【角川会長】

私けっこう余計なことを喋っちゃうので。わかりました。

それでは、何かございますでしょうか。いつもこの懇話会でというか、ここ最近申し上げているんですが、やっぱりコロナさえ無ければなという部分が出てきますよね。いろんな行事なりイベントなり、コミュニケーションの場が大きく制限されてしまうと、非常に残念です。そんなことを踏まえつつ、1と2についてご意見いかがでしょうか。

【事務局（宇野課長）】

会長、すみません。1点訂正してよろしいでしょうか。

戦略目標1の事業番号9番「食育推進関連事業の実施件数」なのですが、「雪印メグミルクスポーツ食育体験事業」が6件になっているんですけれども、1件の間違いでございますので、修正をお願いいたします。参加人数316人はこのままの数字で結構です。件数だけの修正をすみませんがお願いいたします。以上です。

【角川会長】

はい、修正をお願いいたします。

それでは、戦略目標1を見てみましょうか。秋田谷委員にお尋ねしたいんですけども、戦略目標1の実績では令和2年度以降、新型コロナウイルスの影響でいろんな講座とか高齢者のふれあいサロンといった活動にも影響を受けていると思うんですけども。そのあたり地域活動への影響など、秋田谷さんは個人的に存じ上げているんですけど、いろんな活動をされている方なんですけど、何かお感じになったことはありませんでしょうか。

【秋田谷委員】

まずやっぱり、コロナの影響でいろいろなイベントだったりとか、大なり小なり中止になってると思うんですけど、その中で屋外でのイベントっていうのは、皆さん、なんと言うんでしょうかね、抵抗もなく参加していただいているのかなというイメージがあるんですけども。

私、とくに町内会活動とかにも参加しているんですけど、高齢者が集まるイベントっていうのがなかなか実施できないのが現状だと思ってます。子どものイベントもちろん無いんですけども。

町内会に参加する、新現役世代ってほしい何歳くらいの方でしょうか。

【事務局（宇野課長）】

60歳を超えたら定年となりますよね。60歳以上といいますかね。

【秋田谷委員】

なるほど。そこら辺の方たちってなかなか、このコロナ禍で新しい環境に飛び込みづらいのかなっていう感じがあります。今までずっと町内会活動に参加してた70代、80代の方は継続してやられてるんですけども、新たに50代、60代の方たちが入りづらい環境になってきているので、なかなかそういった世代交代がままならない町内会活動といった印象があります。若い人はなおさら入ってこないんですけども、そういったところで、新現役世代が参加しやすい何かがあるといいなとは思っています。

【角川会長】

ありがとうございます。何回も言いますが、コロナのおかげでより参加しにくくなってしまった、そういう環境になってしまったのが大変残念ですが、言ってもしょうがないので、冒頭申しあげたとおり、できることをやっていくと。協力しながらできればなと思っています。

竹口副会長どうですか。

【竹口副会長】

私のほうも、この1～4番なんですけども、実際町内で実施しているわけですが、例えばふれあいサロンですね。私どものふれあいサロンは、今までは週3回で月水金と、10時～15時まで年間8千人くらい延べでやってたんですけども、コロナの関係で現在は月曜日だけ、10時～11時半までとか、1回に集まる人数は11人くらいに留めるということで、特に高齢者支援課のほうと連携を取りながら、特に高齢者ですから感染した場合重症化するということで、とりあえず人数を縮めてやっております。

ただ、完全に中止するとなるとまた弊害がありまして、一人世帯とか高齢者の孤独の問題が出たりいろんなことがあるので、週に1回はということで、1時間以上の滞在をしないと、時間を分けて協力しながら角が立たないような運営ということで、工夫をしてやっております。

それから高齢者クラブというんですね、私どもの高齢者クラブはこの2年間行事を一切していないんですね。ふれあいの旅行だとか日帰りの旅行だとか一切できないということで、記念品を年1回、会費を取ってますので、記念品というか、例えばカステラだとか大福を持ちながら戸別に訪問すると。こういうこ

ともございまして、今言いましたように、地域の再雇用の関係もありまして、65歳ってまだ現役なんですよ。一応、高齢者クラブは60歳以上が入会の対象となってるんですけど、なかなか入らない。

社協のほうとも打合せしているんですけども、なかなか退会する人はいるけど新しく地域に入る人は少なくなってくるというのが実態だと思います。町内のボランティア活動は70代、80代の人を中心なんですよ。60代の人ほとんど参加しない、参加できない状況です。実態としてはね。地域社会の中では、そういうのが影響となっているということでございます。

【角川会長】

ありがとうございます。60歳以上、62、3とかだったら、高齢者の中に入ってるって。

【竹口副会長】

本人たちも自覚ありませんのでね。

【角川会長】

全くないです。

【竹口副会長】

ないですね。

【角川会長】

この辺の年齢設定なり、呼び方も含めて考えたほうがいいのかもしれないね。

【竹口副会長】

危機管理で救済者の議論をして、うちのほうで70歳だったんですけど、町内では75歳以上に年齢を上げてるんですよ。孤独死防止だとか、危機管理の時の避難の組は、年齢制限ちょっと上げてるんですよ。それが実態です。

【角川会長】

ありがとうございます。ほか、いかがでしょうか。

戦略目標の2「子育て力」いかがですかね。もしかして私がそれ近いかなというか、少しずつ年齢は上がってるんですけど11歳、7歳で、こちらを始めた時はまだ幼児でした。11歳、7歳になったんですけど。

例えば12番以降などは、これいつも「結婚新生活支援事業」とかね、この懇話会ではこれで盛り上がり、盛り上がるというか話をしているんですけど。

鈴木さん、いかがですか。鈴木さんの子どもさん、大きいですよ。

【鈴木委員】

そうですね。一番下が中学2年生、あとは高校と、19歳か。見てたんですけど、支援金事業というのは知らなかったの、こういうのがあるって知らない方が多いので、もうちょっとこう、認知のほうに力を、知らせていくほうにも力を入れたほうがいいんじゃないかなという気はしますね。

【角川会長】

おっしゃる通りですね。これいつも、私もちょっと感じるところです。広報というか、情報の共有、わ

かりやすい部分で何か、こういうのがあるよと知らしめるというか、そういう仕組みがあればなど。ホームページに出ていますよと、もちろん出ているんですけど。それだけじゃなくて、情報を置きに行くというか、何かそういう仕組みがあればいいですね。待っているクモの巣型でなく、ミツバチ型というか。やりにくいかもしれませんが。

河野委員どうぞ。

【河野委員】

いま、私は広報を担当させていただいておりますので、文字をいつも校正しているわけなんですけれど。先ほど角川会長のほうから、名称がというお話があったと思うんですけど、文字をずっと見てますと、先ほどから「高齢者ふれあいサロン」というのがよく出てくるんですけど、それを見ただけでも、私は自分の年齢は5～60をクリアしているんですけど、ちょっと引くんですよ。

例えば、「認知症カフェ」なんて比較的すんなりと市民に受け入れられる言葉ではあるなと思ってます。例えば「高齢者ふれあいサロン」の高齢者を「セカンドライフふれあいサロン」に変えるだけで、印象が違うんじゃないかと思ひまして。ぜひ担当課のほうで、このような名称についてご検討いただきたいと。と申しますのも、一冊の広報の中で課によって、例えばウォーキングイベントなんかすごく楽しそうな名称がついてるんですね。ところが、当時はこういう高齢者福祉や障害者福祉の施策みたいなところについては、相変わらず高齢者、高齢者という感じで。じゃあ自分が65歳で高齢者なのかって、今、会長もおっしゃいましたけど。そういう名称の各課のすり合わせと言いますか、それを一度ご検討いただければと思います。

【事務局（宇野課長）】

確かに名称って非常に大事なところありますよね。これまで使われてきた名称でわかりやすいではないかっていう観点の一方で、受け手の感性と言いますか、そういったものも変わってきているという部分もあると思いますので、そこは今ご意見いただいた中にありましたように、セカンドライフですとか、そういった部分は担当の高齢者支援課のほうにもお伝えしたいなと思います。

また、結婚新生活のほうでございますけれども、こちらは不動産会社の窓口に置いていただいたり、ここに記載のとおり、結婚式場ですとかそういったところにも、目につきやすいところと努力をさせていただいてますが、より一層ですね、今はSNSというものもありますから、そういったところも考えながら常に発信のメニューと言いますか、引き出しを増やしていく努力をしていきたいと考えております。

【角川会長】

はい、ありがとうございます。

セカンドライフ、良い言葉ですよ。河野委員ありがとうございます。これ、「新現役世代」という名前も確かこの懇話会で出ましたよね。そういうふうに、時代に合わせてフレキシブルに変えていくことが大事だと思います。ただ、どんな会なのかわかりづらい部分があるので、しっかり補足は必要かと思いますが、入り口としてはすごくいいのではないかなと思いますので、ぜひ検討をお願いします。

続きまして、戦略目標の3と4について事務局から説明をお願いします。

【事務局（本庄主任）】

「戦略目標3『地域資源』からモノやしごとを創る」について、資料は4～6ページ、番号は19～35の17項目になります。戦略目標3全体をとおして、担当課評価はAが12項目、うち1項目は令和2年度Sで目標を上方修正しております。Bが5項目となり、概ね戦略目標3全体を通して順調に事業が実施され

ています。

昨年度、目標を達成しS評価としました25番「加工品の開発数5年間で5件」は「5年間で30件」に上方修正しております。令和3年度も、道の駅で6つ、とれのさとで1つの新商品が開発されており、実績は7件でA評価となっております。また関連するものとして、23番「地場農産品販売額」につきましては、令和元年に「いしかり災害時対応ファーマーズ・マーケット」として石狩振興局の認定を受けた「とれのさと」が、視察やイベント等に取り上げられることも増え、施設の知名度も上がり売り上げを伸ばしている状況です。

続きまして「戦略目標4『いろいろな顔』をつくる」について、資料は7ページ、番号は36～42の7項目になります。戦略目標4全体を通して、担当課評価はAが6項目、Bが1項目となっております。海水浴場につきましては、令和2年度はコロナウイルスの影響で閉鎖しておりましたが、令和3年度は感染対策を講じ監視員を確保したうえで開設し、多くのお客様がいらっしゃいました。道の駅や市民図書館につきましては、休館や時間短縮の影響により、入込客数、入館者数は単年度の目標、道の駅は年間40万人、図書館は年間30万人に達しておりませんが、道の駅については新たに結成された「石狩管内の道の駅連携プロジェクトチーム」で情報共有やコロナ対策等について協議を行ったほか、市民図書館ではWEBサイトを活用して積極的な情報発信を行うなど、コロナ禍において入込客数、入館者数を増加させていることを評価しましてA評価としております。

戦略目標3と4につきましては以上です。

【角川会長】

ありがとうございます。それでは事務局に説明いただきました戦略目標の3と4、3番が「『地域資源』からモノやしごとを創る」、4番が「『いろいろな顔』をつくる」について、ご意見をお願いします。

【高宮委員】

ちょっとあまりにも早すぎる。概略すぎて目が追いついていきません。番号言うなりして言っていたかないと、このA3を理解するにはちょっと、もう少し言うと丁寧に。私は途中から入ったので内容等について聞きたいと思うんですけども、聞きたいことは、ここで言えば35番ですか。自分の経験から石狩湾新港というものに非常に興味を持っておりましたので、今後どのようにしていくのか、市のために活躍できると言いますか、大事な点が、この具体的な施策・事業というのが書かれています。KPIはそれを進めるためのいわゆる重要な要素を書いてあるわけですけども、やはりどうしても目につくのは、ここにある具体的な施策と事業が書いてあるんですけども、KPIに入っていくと、例えば35番ですと具体的な事業がたくさん並んでおりますが、その一部の「エネルギー関連企業新規立地数 5年間で3件」というKPIになってしまうんですが、この辺は説明できるんでしょうか。つまり、総合戦略としては具体的な事業をやるという計画を立てているんですけども、実は5か年計画の中ではそのほんの一部しかやらないということになるのでしょうか。その辺ちょっとお聞きしたかったんですけども。

【事務局（小鷹部長）】

それは私が担当でございまして、企業連携のほうで担当しております。その中で、このKPIの取り方だとか、5年間で3件というのは非常に、先生が言われたように、指標の取り方として難しい3件という考え方だと思うんですね。例えばエネルギー関連産業で言いますと、まず新港地域がもともと製造業ですとか工業のところから、交流の場、例えばコストコであったりだとかホテルができたり。今は、再生エネルギーを中心としたエネルギー産業というのに、新港地域の業態自体も変わってきてます。

その中で、例えばこの中で3件として考えているのはですね、バイオマス事業ですとかが大きく関係しています。それと、再エネを使うという意味で言うと、例えばデータセンター事業者も、再エネを核とした電力需要を求める会社も増えてきてございますので、そういうのもある意味、再エネを使うという部分では需要家としてはあります。あともう一つは、再エネ由来とこちらに具体的に書いてますけども、水素製造ですとか水素関連産業。これは風車と非常に親和性の高い水素というものを核とした事業展開を図る企業が来るのではないかというのを目指して、5年間で3件としております。

ただ、この3件の考え方が、立地という考え方で言いますと非常に法体制も難しいものですから、立地を表明してから本当に建って運転開始までというのが非常に時間がかかるもので、環境影響評価とかあるものから、この3件をどう取るかというのは難しいところかなと考えております。

【高宮委員】

ありがとうございます。私の、ちょっと理解したいことはですね、ここに挙がってますね。具体的な事業と書いておりますけども。わかりますでしょうか。

【事務局（小鷹部長）】

はい。「海運を活用した……」のところ。

【高宮委員】

そういったことをやろうとしているんだと思うんですけど、その中の一つがエネルギー関連企業新規立地数5年で3件と書いてあるんですけど、5か年全体ではこういったことに取り組むということではないのか、取り組むのかということをお聞きしたいんです。

【事務局（小鷹部長）】

取り組むんです。

【高宮委員】

その中の一つをここに取り上げているという意味なんでしょうか。ここに全てが包含されてるという意味なんでしょうか、KPIは。

【事務局（小鷹部長）】

KPIはですね、取り方としては5年間で3件。3事業所。

【高宮委員】

だから、この3件を取り上げていることは、具体的な事業を取り込んでるという考えでしょうか。

【事務局（小鷹部長）】

事業というか企業。事業？

【高宮委員】

ここに書いてますね、施策としての事業をやります、取り組んでいるんだというふうに読み取るのでしょうか。

【事務局（小鷹部長）】

立地企業ではなくて、取組としての件数で見るとのこと。

【高宮委員】

いえ、取り組むとしていることだと思えますけども、ところがKPIになると、3件で済むものなのかなのかなって質問です。全体として書かれていることは、目標達成のための具体的な事業が書かれています。しかしKPIとなると、一部のものに取り上げているものも、中にはあるんです。そこでちょっと、一つの例としてどうなのかなと。

【事務局（小鷹部長）】

具体的な事業としてこの中が事業でして、この中から3件くらい立地してほしいなという、3件の立地ですね。

【高宮委員】

そうすると、戦略目標全体のここでいう目標が、市内産業売上高の2,500億円だとか、立地企業数が800社に到達するということなのかなと、ちょっと理解し難いものですから。

【事務局（小鷹部長）】

エネルギー関連産業としては5年間で3件ですけども、そのほかに製造業ですとかも含めて、立地企業については800件とか。業種というか、セクターを分けて考えています。

【高宮委員】

私としては、具体的な事業、取り組む事業と捉えていますので、それなら達成するのかなというふうに思っております。

【事務局（小鷹部長）】

それに向けて頑張っております。

【角川会長】

はい、貴重な意見ありがとうございます。そのほかいかがですか。

戦略目標3の部分、農産物についての項目が複数あるんですけど、新居委員にお尋ねしたいですね。コロナ禍でも農産物の売り上げは順調じゃないかと思うんですけど、その要因はどのようなことが考えられますか。とれのさりがリニューアルしたことももしかしたら要因かもしれませんが、その辺お話しただければと思います。

【新居委員】

そうですね、コロナになって家でご飯を食べることが多くなった。それで、家庭で料理をする回数が増えたとおもうんですね。その中でとれのさりがリニューアルして、ある程度、新鮮で安いで言うのが口コミみたいなので広がって、結構土日なんかは駐車場に入れにくいくらい混んでもうあるってことです。あとはお米の消費がだんだん少なくなってきて、うちはお米を主に作っているんですけど、小麦が今高くなっているの、米粉でパンを作らしようとかそういう戦略もあるみたいですけど、やはり米農家としてはお米自体を食べてほしいんですよ。北海道のお米は今すごく美味しくなっているので、その辺

の戦略というか、とれのさとでもお米の PR とか安い日とかいろいろやってるんですけど、やっぱり日本人だからお米を食べてほしいなっていう思いはあります。

【角川会長】

はい、ありがとうございます。また農産物について、鈴木委員は地元農産物を使った加工品を数多く開発されていて、私はイシカンしか知らないのですが、マーボー缶っていうのもあると聞きました。現在の取組や課題などがあれば、支障ない範囲でお話しいただきたいなど。

【鈴木委員】

私は2年前、2020年からイシカンを立ち上げまして、地域ブランドを作りたいという思いで始めました。石狩を外に発信していきたいところからのスタートで、地場のものを使って、石狩の名前を広げて認知していただきたいということでやった事業です。

私は、青年会議所とか商工会議所青年部とかいろいろやらせていただいて。浜益と厚田と石狩って結構、距離がありますよね。その距離だけじゃなくて、人の繋がり距離感もちょっとありまして。それはあんまり悪い意味じゃないですけど、ちょっと遠いなと。私が青年会議所の時に、その距離をちょっと縮めた事業をやりまして、それがきっかけで缶詰を浜益のタコ、厚田の望来豚、石狩の花畔のなめこという3地域で、一つの商品として外に発信したいということでスタートしたんですね。

それで今、ちょっと困ってることがありまして。石狩の食材を使いたいといっても、なかなか相手を見つけるのが、農家さんと知り合ったりその辺が難しいんですね。今回ミニトマトのカレーを出したんですけど、それも去年、いろんな伝手でようやく了解を得て購入させていただいたんですけど。そういう、石狩市の特産品のルート、繋がりですかね。僕らみたいな加工に繋げていきたい人と生産者の人たちがスムーズに繋がる仕組みがあれば、もっと開発進むんじゃないかと思うんですね。もっと言えば6次化みたいなものなんですけど、生産者と作り手と最後の販売のところまでうまく繋げていけば、もっと商品が発信できるんじゃないかなと。例えば、生のトマトが美味しいのはわかるんですけど、価値を上げるという意味では加工っていうのは絶対なので、こういうところにもうちょっと力を入れるって言ったらおかしいんですけど、環境を作っただけであれば、もうちょっと缶詰の数多くなるんじゃないかなと。

【河野委員】

今のご発言を受けまして。小泉武夫さんという方が石狩市に1か月のうち半分おられることはご存知でしょうか。市の方もご存知ですか。小泉武夫さんという教授ですけど、この方は醸造の世界では日本トップの有名人の方で、佐藤水産さんが研究室を作られて、そこへですね、小泉先生のために作ったような研究室だそうで。小泉先生ご本人から聞いたんですけど、1か月のうち半分は石狩にいます。そして、醸造の中でも醬（ひしお）って奈良時代から作っていたお醤油ですね。今は魚醬とかありますけれど、穀醬（こくびしお）というのは穀物で作るお醤油らしいです。あとは例えば肉醬もあるけど、草醬、これが全くないんだと。これをぜひやりたいんだと、誰もやっていないからやりたいんだというお話があったんです。先ほど六次産業化というお話があったと思うんですけど、作り手と生産者とが一緒になって地域ブランドを立ち上げていける、そういう中にせつかくこのような有名な先生がいらっしゃるって、それに対して市が放っておくのはもったいないんじゃないかと思うんです。ぜひ一度、担当課、農業のほうからでもいいんですけど、そういう方に繋いでいただいて、お尋ねいただければなと思っています。

【事務局】

はい。

【角川会長】

そうですね。ぜひ、情報共有することはどんどんしていきましょう。

ほかいかがですか。戦略目標4のほうは、観光ということであれば、やはり観光協会さんになると思うんですけど。野村委員、いろんな観光施設の入込や物産の振興が指標になっているんですけど、コロナ禍においてですね、避けては通れない話題になるので勘弁いただきたいんですけど、観光客の受入れとか物産の振興において、感染対策など特に難しかったこととか気を付けていたことなどはありますか。また、こういう状況だからこそ始めた新しい取組など、もしあればお話ししたいと思います。

【野村委員】

今までは人を集めることが仕事だったのに、集めすぎても悪いというか、なかなか難しいここ何年かを過ごしてるんですけど。ただ、このコロナ禍で気づかされたのは、石狩市の観光資源というのは代表的なところで言ったら「はまなすの丘公園」ですとか自然を楽しむというところが多いので、お客様方も屋内というよりも屋外で散策されたり楽しめる場所が結構多いので、コロナ禍でも実はそれなりにお客さんがあって、自然観察にいらっしゃってるというのを実際に目撃していたので、逆にコロナ禍で石狩市はここが強みなんじゃないかと私はちょっと思っていたんですよね。

ただイベント等々、例えば三大秋祭りですとか石狩市を代表するようなお祭り関係が全くできていない状況だったので、そういったところはコロナの影響が非常に大きいと身をもって感じているんですけど。ただ、ダメダメ言っても正直どうしようもなく、この状況を変えるのもなかなか難しいところではあるので。よく言われてますけど、コロナ禍で感染症対策、基本的にはまだマスクなり手指の消毒なりっていうのは、観光協会の施設であったり関連施設であったり、今、海水浴場もちょうどオープンしてますけど、海水浴場のほうでもお客様にお願いしたりという状況で、まだ変わらないという部分もあるんですけど。海水浴場のほうもここ最近天気の影響されて、天気が悪いとどうしてもお客様もいらっしゃらないというのがあるので、何とも言えないところなんですけど、直近の週末は3~4,000人くらいお客様はお越しいただいているので、正直徐々に、今、コロナの感染者数は増えてきてはいるんですけど、昨年、一昨年に比べると少しずつ一般の方々が動き始めているなど。

6月の中旬に、はまなすの丘公園周辺でイベントを、本町地区一帯でハマナスが盛んに咲く時期に合わせて、初めて地区のいろんな観光施設合同でイベントやったんです。実はかなり集客がありまして、5,000人近く2日間でいらっしゃっていただきまして。道路が渋滞するくらいの入込があって、私たちもびっくりしたんですけど、やはり少しずつですけど回復の兆しも見えてるのかなと個人的には思っています。今年こそは石狩市三大秋祭りが開催できるように取り進めてる最中ですので、無事開催して、やはり石狩市の大きな鮭のお祭りなのでできればいいなと、頑張ってる取り進めております。

【河野委員】

今の観光協会さんのお話に対して。2年前に前任者の高梨さんにこの場でご提案したことで、冬の犬ぞりレースを開催するというお話が進んできていると聞いていますが、今どのくらいまで。

【野村委員】

今年の冬にそういった話になってたんですけど、ちょっと都合が、石狩市の開催というのは断念ということ。

【河野委員】

石狩市ではやらなくなっちゃったんですか。

【野村委員】

私も直接そこに携わってなくて、高梨のほうで取り進めていたんですが、犬ぞり連盟の方ですとか打合せはずっとしています。

【河野委員】

日本犬ぞり連盟の会長さんから今年に入ってお電話いただいて、やれる方向で進めていますというお話を聞いていたものですから、やれるなら何とかしてやったらいいんじゃないかと。今まで道北でやっていたんですけど、札幌に近いところで犬ぞりレースをやると。観光はどうしても夏場に限ってしまいますけれど、食の祭典が秋までありますが、冬場っていうところのイベントっていうのを、集客できる観光っていうのを、冬場にいい着眼点だと思いますので、ぜひ関係各所にご協力をいただきながら進めていただきたいものだなと私は思っています。

【角川会長】

前おっしゃっていたと、もちろん私も覚えています。犬ぞりレース、ぜひ実現してほしいなと思っているとところです。さけ祭りもあればですね、公認キャラクターを出す準備もありますので。

時間もありますので、次に資料4「戦略目標5と6」について、先ほどご意見もありましたが、ボリュームもありますので要点をゆっくりお話しいただくような形でお願いします。

【事務局（本庄主任）】

「戦略目標5 誇りとなる『人や文化』を育てる」について、資料は8～10ページ、番号は43～55番の13項目になります。戦略目標5全体を通して、担当課評価はAが6項目、Bが7項目となっております。こちらは新型コロナウイルスの影響による事業の中止が影響の大きい事業となっております。

例えば44番の「文化振興事業参加小学校数」のところですが、Kitara ファーストコンサート事業が中止となりましたが、令和2年度はコロナの影響で中止していた「放課後すこやかスポーツ教室」を再開し、食育推進事業を実施しています。続いて、45番の「姉妹都市留学生の派遣・受入」は中止となりましたが、彭州市が開催したオンラインイベントに参加しております。

また、スポーツに関するイベントにつきましては、中止あるいは感染対策を講じての開催となったものがあります。中止となったのは「全道カローリング交流大会」や「石狩市民カローリング大会（厚田、浜益）」など、実施したものは「第16回石狩市民カローリング交流大会」や「はまなす学園カローリング講座」、「ウオークの日イベント」となっております。そのほか中止となった事業につきましては、先ほども出てきましたが53番の三大秋祭りが中止となっており、51番の植樹祭についても中止となりました。全体として目標の数値には至らない事業も多かったのですが、コロナ禍に対応した取組や情報発信を行い、事業の推進に今後も努めてまいります。

55番の「ふるさと納税の寄附件数5年間で7万件」につきましては、第2期の総合戦略で新しく追加した項目になります。コロナ禍においても地域の関係人口を増やす取組として有効なきっかけとしてとらえており、令和元年度5,389件だったところ、令和3年度におきましても順調に件数が伸びております。

続きまして、「戦略目標6 時代にあった地域として持続する」について、資料は9～10ページ、番号は56～65番の10項目になります。戦略目標6全体をとおして、担当課評価はSが2項目、Aが7項目、Bが1項目となっております。

S評価となった2件についてまず説明いたします。一つ目の、62番「遊休公共財産の効果的な活用・処分件数」5年間で3件となっておりますが、「旧厚田小学校」と「旧新港南浄水場」の売却により目標を達

成しております。令和4年度におきましても何件かプロポーザルを予定しておりますが、売却に至るかどうかは未確定となっております。目標値の見直しにつきましては今年度の状況を見て翌年度に検討したいと考えております。

二つ目の、65番「本市に企業版ふるさと納税を実施した企業数5年間で5件」につきましては、令和2年度に当初目標の「5年間で2件」を達成しており、令和3年度からの目標値を「5年間で5件」に上方修正した箇所となります。令和3年度については8社から寄附をいただきまして、充当先は資料に記載の通りです。令和3年度に8社から寄附をいただいたことで、累計で実績が10件となり目標を達成したこと、また令和4年度は1件の申し出を既に受けておりますことから、KPIを「5年間で5件」から「5年間で16件」に上方修正したいと考えております。16件とした根拠としましては、実績には同一企業は重複してカウントしておらず、新規企業をカウントしております。令和2年度及び令和3年度の実績のうち、市から直接の声掛けをしていない、企業側の自主的な寄付と思われるものが年間2件程度であったことから、以後3年間に2件ずつとして6件と見込み、16件という目標としております。

S評価となった2件につきましては、62番はKPIをそのまま継続、65番はKPIを修正したいと考えております。

また、63番の「市民参加手続の参加者数」についてですが、初年度の令和2年度の実績数値の修正をさせていただきます。こちらは目標設定の際、令和元年度に今期の総合戦略の令和2年度から令和6年度までの目標を設定する時に、市民参加手続として、審議会やパブリックコメント、ワークショップや意見交換会の参加者と合わせて、アンケート調査の回答数も含めて目標を設定いたしました。平成28年度から30年度の平均の792人から、年間800人×5年の4,000人を目標といたしました。しかし、目標設定の参考としたこの3年間は、たまたまアンケート調査が実施されておりました。その後、令和元年度はアンケート調査3件983人、令和2年度は2件2,721人となり、今期の単年の目標値800人を大きく上回る実績となっております。そこで、実績の数値にはアンケート調査分の人数を含めないこととしまして、令和2年度の実績3,549人からアンケート調査分を除き、837人に修正させていただきたいと思っております。この項目につきましては、KPIの「5年で4,000人」は変更せず、今後もKPI実績からはアンケート調査を除く取扱いで集計をしたいと考えており、ご承諾をいただきたいと存じます。

最後に、57番「空家活用促進事業制度利用件数」をご覧ください。令和3年度の事業については、これまでの「空家活用助成事業」と「住宅リフォーム支援事業」を統合し、「新生活様式スタート支援事業」として実施しております。また、企画課で実施しております「結婚新生活支援事業」について、住宅の取得等に対して中古住宅の購入が一部こちらの事業に流れていることが現状として考えられますので、令和3年度の実績につきましてはこれらの制度改編を考慮し、結婚新生活支援事業のうち「中古住宅の取得件数2件」をこちらの実績に加えております。空家取得の実績数は、前年と比べて13件減少となっており、市内の空家の件数が減ってきている現状も考えられますが、引き続き制度の周知に努めていきます。

戦略目標5と6の説明は以上です。

【角川会長】

ありがとうございます。ごめんなさい、時間が少し進んでおりますので、一人一言ずつでもお話しいただきたいなど。質問等は最後にまとめてお聞きしたいので、まずは戦略目標5ですね。地方移住の取組が指標となっているところなのですが、厚田地域協議会の小山委員にぜひお尋ねしたいのですが、厚田区への移住者を増やすため地域では熱心に取り組まれているとお聞きしてるのですが、移住者を増やすために何が必要かというところを聞きたいなど。具体的な取組があれば、紹介いただければと思います。

【小山委員】

地域協議会では、移住者、子どもを増やすということを長い間協議して参りました。なかなかですね、職場というものがやはりネックとなりまして、お父さんとお母さんが働く場と言うんでしょうか。今は漁師さん農家さん、みんなもう2代目に若い人たちがなっております、そのお子様たちが一貫校の厚田学園にいられているのが現状なんです。それで、さらにいろんな人たちを招きましょうかということで意見が交わされたんですけども、なかなか結論というものは出てきませんね。働き方も養鶏の方養蜂の方、いろんな方がいろいろ話し合っておりますけれど、こういうふうには何かをやりましょうかという具体的なものっていうのはまだ出ておりません。残念なんですけれど。

【角川会長】

わかりました、ありがとうございます。なかなか難しいところなんですけれど、引き続きよろしく願います。

戦略目標6のことで個人的にも高宮委員にお聞きしたいんですけども、空き家とか有休公共財産というところですね。市民の安心安全、快適な暮らしを守るという意味でも社会環境の整備は非常に重要な取組なんです、高宮委員のご専門の立場から、この空き家対策等の何かご意見や留意点があれば願います。

【高宮委員】

私は都市行政をやっている者ですけど、直接的には空家という問題には取りかかっておりませんが、もうすでに全国的な課題となってそれをどうするかということです。私はアカシア町内会の会長もしております、周りに空家ができておまして、そのことをどうするかと考えております。札幌市内においても、築何十年経った空家の周りも、同じような年代の方々と一緒に建てられている。ですから、混在していないところに空家ができていくということで。一つは財政的な問題。ゆとりのある自治体では自ら何らかの形で壊すこともあるのですが、やはり都市計画的に何らかの対策を練っていかねばならないのではないかとこのところなんです、まだ今のところ具体的な対処法はありません。

私どもの町内会では、更地にして売っていくと入ってくる。それはまだ交通の便があるということ、ある程度の土地があること。それから、周りが市としては住宅が成立していることで入ってくるんですよ。まち全体が寂れているところでは、本当に大きな問題であると思いますけれども、まちにおける問題として正解的なものは全くないです。残念ですけども、参考にならないと思いますけれども。

【角川会長】

ありがとうございます。少しずつは動いてるかなという印象はあるんですけどね。やはりダイナミックなことはなかなか難しいということで、引き続き行政と一緒にやってですね、ここは取り組むべき重要なところかなと思います。

最後走ってしまいますけど、金融機関の支店長様にご参加いただいておりますので、今の6つの戦略すべてに関してどこでも構わないですし、総括あるいは感想でも構いませんので、お話しいただければと思います。

まずは林委員のほうから。

【林委員】

私も先月の中旬に着任したばかりでございますので、正直に言って完全にはまだ把握できていない状況でありまして、なかなか石狩市に言及した明快な意見が言えるかというところなんですけど、参考にでき

る部分があれば提供していきたいと思います。

先ほどの空家関係の対策なんですけどね、知っている会社で、空家を小売り目的でどんどん買い集めて、介護事業をやられている会社なんですけど。介護が必要な方を一つの建物に集約して、医療をやられてというような事業を営んでいる会社がほとんどだと思うんですけど、今コロナということもあって、なるべく人との接触を避けたいという方も中にはいらっちゃって、一軒家を提供してもらえらんだったらそちらへという方もいらっちゃってですね。希望されてるということで、そこは実は岩見沢の会社なんですけれど、空知管内で空家を安い金額で買い取って、中をリフォームして、それを介護を受けたい方に売ってるような商売でして。そういうのが果たして、今後成り立っていくのかな、どうかなというところなんです。計画としてはですね、医療を受けられるということで、非常に空家が増えてきている状況の中、有効利用なんかも一つの作戦なのかなという感じも受けてます。

もう一つ、江別なんですけど、江別に市の持ち物で非常に古いもの、文化財と言ったらいいんでしょうか。非常に建物に印象があって、壊すのは痛ましいというような、良い建物があったんです。そちらについては札幌市内の喫茶店の方に声をかけて、そこで喫茶店をやるかということで、新たに事業を展開されている事業者を誘致することができたという事例です。ただ、人口が増えようがですね、建物については空家が増えてくるのは今後も無くならないと思いますので、金融機関としても何かそういうことでお役に立てるような、できればですね、なんとか信用を高めていきたいと思っています。

【角川会長】

ありがとうございます。続いて、神林委員。

【神林委員】

私も今年の4月から石狩に着任して、上川管内、旭川、とくに美瑛とか富良野あたりを中心に活動していました。観光に関しては、美瑛だとか富良野は広告の魅せ方が上手いと言いますか、SNSだとかYouTubeだとかいろんなものを駆使してるので、非常に上手。お金を払ってプロの方に来てもらっていろんな魅せ方を発信して、青い池だとかあいった観光の場所を作って。海外からのお客さんは来てないですけど、国内のお客さんは結構来ているという話で、観光としてはまちにお金が落ちてるとというのが現状です。そういったことも含めて、お金をかけるかどうかは別にして、いろんなアイデアを駆使してなるべく石狩市にお金が落ちる仕組みを作っていたらいいかなと。

もう一つ、企業版ふるさと納税ということで、今のところ戦略目標に対して実績を見てたら順調にいつているかと思うんですけども。今後はエネルギー関連で言うと、SDG sには今取り組んでらっしゃるかと思うんですが、いわゆるカーボンニュートラル、どうやって二酸化炭素を減らすかというような部分の取り組みが、国や道を含めて一生懸命やっているかと思いますので、企業版ふるさと納税の一部の内容の中に、どう石狩市として関わっていくかは別にして、内容の幅を広げるといえるか、例えば二酸化炭素を買い取りますだとかってというような商品みたいなものを作っていたらいいと思うんですが、企業側としてはもっと納税しやすくなるのかなと思います。

【角川会長】

ありがとうございます。続きまして、小島委員お願いします。

【小島委員】

石狩に限ってではないんですが、人口がなかなか増えていかない中で、いかに減らさないかということで、就業人口とか働く人をいかに増やしていくかってことが課題なのかなと、これは皆さんも思うで

しょうけど。その中で金融機関としてできることと言えば、企業誘致がメインかなと思っています。石狩湾新港があるので、やはりいかに企業誘致できるかということで。まさに今、脱炭素に向けた取組で再エネの関係は語ってしまったので、それにSDGs関連など興味のある企業様を中心に誘致するお手伝いができればというふうには考えて取り組んでおります。融資するばかりではなくて、常に営業されてる企業様が、我々が勤務先を回って課題として言われているのは人手不足で、人がなかなか集まらない、なかなか石狩に来てくれないというようなことを結構言われてます。企業努力はもちろん必要なのですが、もう一つは環境整備とか通いやすいインフラ整備だとか、そういったものもやっておられると思うんですけども、もう一步進んでやっていく必要があるのかなというふうに思います。

【角川会長】

ありがとうございます。

今日は石狩振興局地域創生部の阿部部長様にご参加いただいておりますので、部長からも一言いただければと思います。

【オブザーバー（阿部部長）】

石狩振興局の阿部と申します。一通りお話を伺わせていただきまして、冒頭の小鷹部長のご挨拶、角川会長の話にもございましたけれども、令和3年度というのは新型コロナの影響というこれに尽きるかなと思いつつながら話を伺っておりました。生活の影響、子どもたちの影響、さまざまな影響があったと思いますけれども、これは全道的にというよりも全国的な問題だと思いますけれども、自分たちの住むまちでどんな打撃があったか、それとは別に、野村委員のお話にもございましたけれども、強みが際立った部分というのも出てきていると思うんですね。皆さん様々な捉え方をされていて、それを次の取組にどう繋げていくかということ、皆さん苦心されているのかなという印象を持っております。石狩市は海あり山あり川あり、畑あり工業地帯ありと、本当にいろんな顔を持ってらっしゃる地域かなと思っています。古くからの生活ですとか歴史も大切にされながら、一方でいち早く脱炭素先行地域として採択されたりですとか、石狩湾新港地域ではそういった取組なども進んでいらっしゃいますし、流れの速い情勢の変化にも的確に対応されているのかなと感じております。今あるいろんな顔を活かしつつ、新しい顔が出てくれば、またそれをどのように活かしていくかということを考えていくことに尽きるのかなと思いますけれども、引き続き皆様の中で活発なご議論がされたら嬉しいなというふうに思います。

【角川会長】

阿部部長ありがとうございます。

以上で戦略目標1～6まで、計65の事業の点検・評価をさせていただいたんですが、最後に全体を通じてご意見ご質問あればお聞きしたいと思います。

【高宮委員】

一ついいですか。こういった戦略の中で、石狩市には唯一の4年制の大学があるんですけども、この藤女子大学とまちづくりとかこういったことにもっと連携する方針というか、そういうものは行政の中には持っておられますか。

【事務局（宇野課長）】

藤女子大学とは古くから連携協定を結んでおりまして、まちづくり全般の様々な分野で協力をしてもらっていたり、相互の連携をしております。商工でもそうですし、保健ですとかそういった分野で、いろん

な形で。あとは、例えば学生の方が、今年もやるんですけども、商工ですとか企業連携ですとか、観光のですね、それぞれに学生さんがインターンで来て、まちづくりのことを知りながら、勉強しながら学生の観点でまちづくりに提言をしたりだとか。そんなような経験を地元の大学として、そういう人材の活用という観点も含めてまちづくりには活かしている努力をしています。

【高宮委員】

この中で何か出てこないかなって期待しましたが、出てなかったのでお聞きしました。ありがとうございます。

【角川会長】

昔、民間のほうでありましたよね、藤女子と。何でしたっけ。

【事務局（宇野課長）】

「カナストーリー」、地ビールの。

【角川会長】

地ビールですね。これ民間なんでしたよね。結構あれは藤女子さんのイメージもあって、ちょっとショックムーブメントもありましたよね。ああいうのも行政主体だとどうなるかわかりませんが。先生もおっしゃってましたものね、4年制大学ってことで。

【鈴木委員】

とれのさとさんでやった、三笠の高校生さんが来てっていうのがあったと思うんですけど。調理の専門があるってことで多分呼んだんだと思うんですけど、どっちかと言うと石狩市に高校が2件、石狩南高校と翔陽高校がある中で、もうちょっとそういうところとの企業連携とか、もっと言えば大学と高校の学校の連携とか、もっと持ち上げていくと中学校と高校の繋がりとか、そういうところをもうちょっと市としてできないものかと。私が感じたことなんですけど、そうするともっとも外に行くっていうよりは、石狩の中学生が、じゃあ石狩南高校に行こうとかっていうふうになっていくんじゃないかと。大学は女子大学なので男は行けないですけど。地域の繋がりっていうのを何とかできないかなというのが、私の意見です。

【事務局（小鷹部長）】

今お二方が言われたように、地方創生の戦略の中に学校との連携というのが全く見えない形になっているというのは確かかと思います。私たち所管する課もそうなんですけど、若干サボタージュもあるんじゃないかとお叱りとして受け止めさせていただきます。やはり地方創生、先ほど鈴木様が言われたようなレストランですとか、学生さんたちとのコラボレーションというのはまちの活気みたいなものを非常に見せやすいことでもありますので、今後とも翔陽高校さんですとか石狩南高校さんですと、あと藤女子大さんですか、しっかりと連携を取りながらやっていきたいと思っています。その中で戦略目標の中に入れて定めるものがあれば、これは加味した形で作り込みたいと思いますのでよろしくお願いします。

【角川会長】

よろしいですか。それでは進みたいと思います。総合戦略の各項目について評価があったと思うんですけど、この評価が担当課の評価どおりでよろしいかどうかお諮りしたいと思います。ここをこう変えた

ほうがいいのか、こうしたほうがいいのかというご意見はありますか。

<なし>

【角川会長】

はい、ありがとうございます。それでは、担当課の評価どおりということで進めさせていただきたいと思います。

<了承>

【角川会長】

それでは、まだまだご意見感想等いただきたいのですが、お時間となって参りましたので、「令和3年度実施事業の点検、評価」に関しては終了とさせていただきます。

次第の4「その他」ですが、委員の皆様から何かお伝えしたいこととかありましたら。

後藤委員からお話しいただきたいのですが、感想とか初めての参加で何か感想とかあれば。

【後藤委員】

直接的にこの総合戦略に関係ないかもしれないんですけども、私は本町地区に住んでおりまして、観光協会さんのそばに住宅があります。やはり過疎化が進んでおりまして、そんな中、ここ数年で中古車屋さんですとかよくわからない事業の方とか、個人タクシーだとか新しい方が入って来て、こういうところにも来てくれるんだなっていうふうに嬉しく思ったんですけども。花川のほうから本町地区に入ってきて、1本道しかなくてですね、その1本道のところで、雑木林とかを伐採して、ソーラーとか今何を建てているのかわからないような空き地ができてきているんですよ。そうすると、今まで雑木林とかにいたアカモズとかそういう希少な小鳥とかが見れなくなったりとか。この冬もそうでしたし、例年すごい吹雪が激しくて、ほかに道路がないのでそこしか通る場所がないんですね。雑木林が吹雪とかを緩和してくれてたんですけど、そういうことも段々難しくなってくるので、そういうエコなエネルギーっていうのも大切だと思うし、空いている土地をどうにか使ってもらいたいというのもあるんですけども、本町地区の自然が豊かで何も売るのが売りよってという利点を残していただきたいなっていう。

【角川会長】

はい。貴重なご意見ありがとうございます。そのほかお持ちの方いらっしゃいますか、よろしいですか。

<なし>

【角川会長】

それではですね、最後に事務局のほうからご連絡あればお願いします。

【事務局（宇野課長）】

はい。事務局から何件かお話しさせていただきます。本日はいろいろとご意見を賜りましてありがとうございます。いただいたご意見につきましては担当課のほうに伝えまして、今後の事業に活かすよう努めてまいりたいと考えております。

また、評価については担当課の評価のとおりご承認していただいたということで、BのものについてはAにできるように、AについてはSにできるように引き続き努力をしていきたいと考えております。

1点目ですけれども、本日の会議録についてですが、事務局で作成しまして会長にご確認いただいた後、皆様に配布したいと考えております。

次に、冒頭でも少しお話しを申し上げましたが、今年度はしばらくできなかったフィールドワークを実

施したいと考えております。ただ、コロナウイルスの感染状況においては見送りということになるかもしれませんが、準備のほうを進めさせていただいて、決まったらご連絡申し上げたいと思います。

以上でございます。

【角川会長】

ありがとうございます。フィールドワークね、10月なんとか開催できるといいですよ。この2年間くらい計画してできなかったという経緯がありますので。私も何回か参加させていただいているんですけど、非常に勉強にもなりますし、いい企画というか内容なので、ぜひやりたいなと思います。よろしくお願ひします。

それでは以上をもちまして、第1回石狩市総合戦略推進懇話会を終了いたします。

大変お疲れ様でした。ありがとうございました。

令和4年9月8日 議事録確定

石狩市総合戦略推進懇話会 会長 角川 幸治